



遠藤 和信
(環境 代表質問)

**ボランティアのまち
宇都宮の実現を**

問 26年度から実施のボランティアポイント制度について聞く。

①制度の目的と効果をどのように捉え、新制度として導入するのか。

②すでに福祉ボランティアを実施している団体があるが、さまざまな市民団体などと、どのように連携を図り、どのように制度を構築し、市民が気軽に参加できる制度にするのか。

答 ①市が実施する高齢者等地域活動支援。ポイント事業は、高齢者が充実した高齢期を送ることができるよう、また、まちづくりの担い手として活躍できるように高齢者の社会活動への参加促進を目

的としており、高齢者自身のいきがづくりや介護予防に加え、地域の活性化にも繋がるものと期待している。

②これまでもボランティア団体や商工団体などから意見を聞き、ポイントの付与の対象となる活動の範囲や、貯めたポイントが買物や市の施設公共交通、さらには、ボランティア団体への寄付にも利用できるポイント交換の仕組みについて検討を進めている。今後とも、関係機関や団体などからの意見を聞きながらより多くの高齢者が気軽に参加できる事業となるよう準備を進めていく。

その他の質問事項

- ①市長の政治姿勢(都市ブランドとデザインを重視した都市像の構築ほか)
- ②人事行政
- ③中心市街地活性化
- ④歩いて暮らせる、楽しく自転車に乗れる、公共交通が利用しやすいまちづくり
- ⑤公共施設の老朽化対応
- ⑥情報とデータの一元化と活用
- ⑦教育行政



斉藤 さちこ
(びじょん 代表質問)

**母子家庭等日常生活
支援事業の周知を**

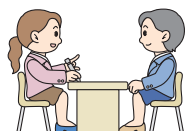
問 母子家庭等日常生活支援事業は、母子家庭・父子家庭及び寡婦が、安心して子育てをしながら生活できる環境を整備するため、修学や疾病などにより一時的に家事援助保育などのサービスが必要となった際に、家庭生活支援員を派遣して児童の世話などを行う事業であるが、事業の存在自体知られていない現状にある。早急に分かりやすい資料を作成し、該当者に通知すると共に、窓口にも資料を置くべきと考え

るがどうか。

答 事業の周知については、現在、ホームページや広報紙への掲載に加え、児童扶養手当申請時にひ

とり親家庭への支援策をまとめたパンフレットの配布などにより案内してきた。

今後は、ひとり親家庭への各種支援事業について、様々な支援策を多くのひとり親家庭が知り、必要な支援策が利用できるよう、児童扶養手当現況届送付時に母子家庭等日常生活支援事業などの情報をまとめたチラシを同封することや、案内資料を窓口の目につきやすい場所に設置するなど、より一層の周知に取り組む、ひとり親家庭の生活の安定や自立に努める。



その他の質問事項

- ①若年夫婦・子育て世帯への家賃補助制度
- ②新たな生活困窮者自立支援制度
- ③宇都宮市の文化行政の方向性
- ④公共施設におけるトイレの流水音装置の設置
- ⑤職員のインターネッ環境の整備及び公共施設におけるWi-Fiスポットの設置



五月女 伸夫
(自民党)

**河内・上河内地域の
将来像は**

問 旧河内町・旧上河内町が合併し、8年目を迎えるようとしている。

河内地域においては、岡本駅舎橋上化や地域自治センター・生涯学習センターの改築工事が、上河内地域においては、生涯学習センターの改修工事が予算化され、26年度がスタートの年となる。今後、両地域に対してどのような「まちづくり」をしていこうと考えているのか、将来像及び方策について見解は。

答 河内地域については、生活環境の整備や、駅舎を含む、岡本駅周辺の整備、河内総合運動公園の整備などに取り組み、上河内地域については、生

活環境の整備や、土地区画整理事業、スマートインターチェンジの整備などに取り組んできた。

両地域の活力の高まりは、市全体の持続的発展につながるものと認識し、今後とも河内・上河内地域における拠点性を向上させるため、都市基盤の整備や、都市機能の集積などにより良好な居住環境の形成を図るとともに、それぞれの地域の魅力をより一層高めるため、地域の歴史・文化の保全・継承や、多様な地域資源を十分に活かした産業や観光など、地域の活性化に取り組んでいきたいと考えている。

その他の質問事項

- ①市長の政治姿勢(将来の財政運営、LRT整備事業、地域と一体となったまちづくり)
- ②河内・上河内地域の振興(JR岡本駅周辺整備事業)
- ③持続可能な環境都市づくりの実現
- ④社会福祉行政(子ども・子育て支援新制度、障がい者福祉施策)
- ⑤救急活動